

## 輸送包装懇話会 2022年度予定

	第 148 回 講演会	第 149 回 講演会	第 150 回 講演会	第 151 回 講演会
日程・時間	7月1日(金) 14:00~16:30	9月16日(金) 14:00~16:30	11月11日(金) 14:00~16:30	2023年1月27日(金) 14:00~16:30

※COVID-19 拡大の状況により、今年度も見学会は中止し、講演会とさせていただきます。また感染症が収束に向かい、見学先の受け入れが可能になった場合は、第 151 回を見学会といたします。

## 2021年度の実績

例会開催日	テーマと講演要旨
<b>第 144 回 講演会</b> 2021 年 7月9日(金)	<p><b>特 集：輸送中の温度環境</b></p> <p><b>テーマ 1：「小口配送サービスにおける取り組み」</b>                      講 師：ヤマト運輸株式会社 <span style="float: right;">大河原 克彬 氏</span></p> <p>1976年にサービスの提供を開始し、現在では年間 20 億個の取扱いとなった同社の「宅急便」関連サービスと取り巻く輸送環境に対する付加価値についてご紹介いただきました。また昨今の EC 化など、時代のニーズに合わせたサービスの市場への投入や、受取利便性の向上に関する取り組み、温度管理の手法や関連する国際標準化の取り組み等については、環境配慮の視点も交えながらお話しいただきました。</p> <p><b>テーマ 2：「滞留したコンテナ内の温度・湿度状況の考察」</b>                      講 師：株式会社日通総合研究所 <span style="float: right;">中嶋 理志 氏</span></p> <p>2021年3月23日に1隻のメガコンテナ船がスエズ運河で座礁したという報道が流れました。スエズ運河を塞ぐように座礁し、離礁するまでの6日間、スエズ運河は通行止めとなる事態が発生し、足止めを余儀なくされた船舶は報道では369隻にのぼるとされています。ご講演では輸送環境でコンテナに影響を及ぼす熱を踏まえて、コンテナ内の状況を温度、湿度の面から推察・解説いただきました。</p>
<b>第 145 回 講演会</b> 2021 年 9月17日(金)	<p><b>特 集：これからの包装と物流</b></p> <p><b>テーマ 1：『加工食品分野における外装サイズ標準化ガイドライン』を中心とした標準化の流れについて</b>                      講 師：株式会社日通総合研究所 <span style="float: right;">室賀 利一 氏</span></p> <p>「総合物流施策大綱（2021～25年度）」では、「物流標準化の取り組みの加速」がテーマの一つで、国土交通省は『官民物流標準化懇談会』を立上げ、物流標準化の取り組みを促すとしています。これの先行取り組みとして「加工食品分野における物流標準化アクションプラン」や「加工食品分野における外装サイズ標準化協議会」があり、物流標準化のひとつの方向性を示すものとなっています。今回は、「加工食品分野における外装サイズ標準化協議会」で作成した『加工食品分野における外装サイズ標準化ガイドライン』を基に、今後の標準化の方向性についてお話しいただきました。</p>

	<p><b>テーマ2：「安全運行管理ソリューション『SSCV-Safety』について」</b>  <b>講師：株式会社日立物流</b> <b>大日向 宙氏・篠原 雄飛氏</b></p> <p>「SSCV-Safety」は、運行前後および運行中のドライバーの生体データやドライブレコーダーなどから取得した走行データをクラウドに蓄積し、AIにより事故リスクを予測するとともに帰着後にその日の運行を振り返ることができる安全運行管理ソリューションです。「事故ゼロ社会」をめざし、同社の現場ニーズをもとに自社開発したSSCV-Safetyは同社車両1,300台に導入され、事故件数の削減はもちろん、ヒヤリハット件数も大幅に削減される効果を確認しています。社外にも展開されるとのことで、実際の動画を交え、ご紹介いただきました。</p>
<p><b>第146回 講演会</b>  2021年  11月12日(金)</p>	<p><b>特集：国際輸送と包装</b>  <b>テーマ1：「サステナブル包装への取り組み木材・金属包装から段ボール化実現」</b>  <b>講師：ナビエース株式会社</b> <b>大山 孝一氏</b></p> <p>同社の創業時の経営方針である『木材から段ボール化へ』の取り組みを継続し、今も木・プラスチック・スチールなどの素材が使用されている分野で、同社オリジナル強化段ボール『ナビエース』・『ナビパレット』を用いた長年の包装改善が、包装及び輸送の環境負荷低減に大いに貢献したと評価され、2019年愛知県より愛知環境賞を受賞しました。また、近年木材の高騰・コンテナ不足により海外物流システムが崩壊し急遽リターナブル容器不足から段ボール化した事例など、サステナブルへの取り組みと包装改善事例をご紹介いただきました。</p> <p><b>テーマ2：「産官学の連携による輸出実証試験への取り組み」</b>  <b>講師：京都大学大学院農学研究科 准教授</b> <b>中野 龍平氏</b></p> <p>自由貿易の推進により、海外から安価な農産物が輸入され、日本農業の危機が懸念されるなか、攻めの農政においては日本産の農産物の海外への輸出促進が目指されています。今回は講師自らが総括となり、産官学の連携のもと、5地域、14機関の連携で実施した生産～貯蔵～流通に至る一括した技術開発と地域や品目の枠を超えた共同・混載の海運輸出試験による、輸出促進に向けた実証研究事業についてお話しいただきました。また、特に箱潰れ防止を目的とした防湿段ボール箱の利用とパレタイズ化や、多機能断熱ボックスを利用した多温度帯輸送など、包装技術の実証試験についてもご紹介いただきました。</p>
<p><b>第147回 講演会</b>  2022年  1月28日(金)</p>	<p><b>特集：物流の変化と包装</b>  <b>テーマ1：「ポストパンデミックの物流改革」</b>  <b>講師：一般社団法人 日本物流団体連合会</b> <b>伊勢川 光氏</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大は、グローバルサプライチェーンに甚大な影響を及ぼしました。特に国際海上コンテナ輸送は輸送需要の急拡大に加え、コロナ禍による人手不足で港湾は混雑し、船舶の港湾外待機も続き、更に米国西岸労使交渉などの問題も抱え、依然として不安要因が多く残る状況が続いています。「コンテナの調達とは？」、「今後どうなるのか？」、今後の見通しを踏まえ、今回を契機にサプライチェーン全体が大きく変わろうとしている中で、物流の未来、物流プラットフォームの構想など、効果的なサプライチェーンマネジメントの実現に向けた課題についてお話しいただきました。</p>

	<p><b>テーマ 2 : 「次世代型の物流施設 ALFALINK について」</b></p> <p><b>講 師 : 日本 GLP 株式会社</b> <span style="float: right;"><b>帖佐 義之 氏</b></span></p> <p>同社は、物流不動産のパイオニアとして、物流施設を単なる保管倉庫ではなく、時代の要請に先駆けて先進的な機能を取り入れ、様々な付加価値を有する物流センターへと進化させ、現在では北海道から沖縄まで約 170 棟の物流施設を開発・運営しています。今回は、“創造連鎖する物流プラットフォーム”をコンセプトとして立ち上げた GLP ALFALINK 相模原/流山（いずれも昨年 8 月竣工）の考え方や取り組みについてご紹介いただき、物流施設が、今までにない価値や事業が次々と生まれる“共創のコミュニティ”へと発展していく未来像についてお話しいただきました。</p>
--	---

## 2020 年度以前の実績

開催回/日	テーマ	講 師
第 136 回 2019.7.5	特集：輸送とシステム ①RFID の現状と包装の役割について ②日本の内航海運について	大日本印刷(株) 山田 隆男 氏 東海大学海洋学部 合田 浩之 氏
第 137 回	見学会：台風による見学先被災、及びコロナウイルス感染症に伴い中止となりました	
第 138 回 2019.11.15	特集：プラスチック問題と対応 ①変容の時、世界 廃プラどう動く」 ②持続可能な社会の実現のために「GREEN PACKAGING」	(株)パンテック 齊藤 剛 氏 大日本印刷(株) 柴田あゆみ 氏
第 139 回 2020.2.17	特集：試験と規格 ①長振幅(ストローク)振動試験規格とその対応について ②段ボール箱の静圧縮試験における破壊に至るまでの挙動と圧縮強度との関係	国際計測器(株) 深田 修 氏 TOTO(株) 宮城 兼一 氏 キューピー(株) 高山 崇 氏
第 140 回 2020.9.18	特集：標準化と試験規格 ①包装に関する ISO 規格の動向 ②ISO 4180 改定のポイント	千葉大学大学院 椎名 武夫 氏 大阪産業技術研究所 細山 亮 氏 レンゴー(株) 山原 栄司 氏
第 141 回 2020.11.9	特集：環境 ①海洋プラスチック問題解決に向けて ②ポストコロナと未来の輸送（包装）	技術士包装物流会 成田 淳一 氏 技術士包装物流会 島田 道雄 氏
第 142 回 2021.3.5	特集：輸送包装の関連技術 ①発泡スチロールの現状と今後 ②食品工場内の自動搬送技術～省人化と安全・衛生面への貢献～	発泡スチロール協会 鈴木 高德 氏 村田機械(株) 関 賢一郎 氏
第 143 回 2021.1.29	特集：材料 ①マイクロフルートの特性と輸送包装への応用 ②環境バイオマスプラスチックの解説と動向	(株)クラウン・パッケージ八木野 徹 氏 アイ-コンポロジー(株) 三宅 仁 氏